
八千代市第 5 次総合計画後期基本計画
策定に係る基礎調査報告書

令和 6 年 3 月



八千代市

目 次

I. 社会経済情勢の動向調査	1
1. 調査目的	1
2. 調査結果	1
(1) 本市の内部環境分析	1
(2) 本市を取り巻く外部環境分析	2
II. 第12回八千代市市民意識調査【市内在住者・市外在住市内在勤者】	6
1. 調査目的	6
2. 調査の概要	6
(1) 調査地域	6
(2) 調査対象	6
(3) 配布数と調査方法	6
(4) 調査期間	6
3. 市内在住者調査結果	7
(1) 八千代市のイメージ	7
(2) 八千代市への愛着	7
(3) 定住意向	8
(4) SDGsに関する意向	10
(5) 市が力を入れて取り組むべき施策分野	11
(6) 優先順位が高い今後のまちづくりの分野	12
4. 市外在住市内在勤者調査結果	13
(1) 八千代市のイメージ	13
(2) 八千代市の魅力	13
(3) 魅力的なまちになるための方向性	14
(4) 市が力をいれて取り組むべき施策分野	14
(5) 商業施設	15
III. 各種団体アンケート調査	18
1. 調査目的	18
2. 調査の概要	18
(1) 調査地域	18
(2) 調査対象	18
(3) 調査方法	18
(4) 調査期間	18
(5) 調査結果	19
IV. 市民ワークショップ	25
1. 市民ワークショップの概要	25
(1) 開催目的	25
(2) 開催概要	25

(3) 市民ワークショップの成果（抜粋）	27
2. グループワークの様子	30
(1) グループワーク中	30
(2) 第1回グループワークの成果物	31
(3) 第2回グループワークの成果物及び発表風景	32
V. 八千代市のまちづくりの課題	34

Ⅰ. 社会経済情勢の動向調査

1. 調査目的

国内の社会・経済及び国際情勢等に関する各種データを収集・分析し、本市の「内部環境」と「外部環境」を明らかにするとともに、本市を取り巻く社会・経済情勢のトレンドを整理する。

2. 調査結果

(1) 本市の内部環境分析

① 本市の強み

本市の強みは、合計特殊出生率が高水準であるなど子どもを産み・育てやすいことや、日常的な買い物や外食、医療・介護施設が徒歩圏内にあるなど生活利便性の高さが最大の強みとなっている（図表1，2）。上下水道や市道など市民の生活を支えるインフラの整備進展に加え、火災が少ないことや犯罪件数が減少傾向となるなど治安の良さも市民の安心・安全な暮らしを下支えしている。

また、整然とした街並みのなかに街路樹などの緑が多くみられるほか、住宅開発が進むなかでも大規模農家が比較的多いなど、自然が豊かなことも大きな特長である。さらに、温室効果ガスや都市ごみの排出量が少ないなどエコロジーなまちであることも本市の魅力につながっている。

東京都心へのアクセス利便性が高い割に地価が割安なこともあって、本市の住宅需要は底堅く推移しており、東京近郊地域（船橋市や市川市、東京都江戸川区など）からの移住・定住が進展して人口が増加傾向となっている。

行政運営の面では、人口1千人あたりの職員数が県内で5番目に少ないなど行政のスリム化が進んでいる。

② 本市の弱み

本市の弱みは、主に人口の増加が続いていることを背景とした、保育所や小中学校、高齢者向け福祉施設の需給ひっ迫が挙げられる。とりわけ、今後の人口動態を展望すれば、高齢者の人口が右肩上がりで見込まれているだけに、高齢者の福祉環境の充実が喫緊の課題である。また、人口あたりで見ると、スポーツ施設も十分とはいえない状況となっている。

外国人も含めて新たに移住してくる市民が多いだけに、地域コミュニティの確保・充実も大きな課題である。

一方、人口の増加が続いている割には、産業集積が限定的となっているほか、地場産業である農業も衰退傾向となるなど、更なる産業振興（働く場の確保）により、女性や高齢者の就業率の底上げも重要なテーマといえる。

本市は、市制施行が1967年と比較的新しいまちであるが、もともと文化財が少ないことや観光面のポテンシャルがやや低いことから、市民のまちへの愛着（都市アイデンティティ）をいかに高めていくかということも重要である。

行政運営の面では、経常収支比率が県内で3番目に高水準となるなど慢性的な財政硬直化がみられる。

(2) 本市を取り巻く外部環境分析

本市を取り巻く時代の潮流（外部環境の変化）についてみると、日本の人口は、2008年の1億2,800万人をピークに減少の一途を辿っている。現在の経済情勢は、コロナ禍からの脱却に伴って、国内外ともに堅調な動きとなっているが、今後の人口減少の加速に伴って、国内需要（我々の消費額）が伸び悩む可能性もあるほか、最近の円安に伴うインフレの動きもあって、企業業績は先行きの不透明感が強い状況である。このような状況下、不透明な現状を打破するために、社会を変えようという機運の高まり、すなわち「SDGs」や「脱炭素」、「DX（デジタルトランスフォーメーション＝デジタル技術で社会や生活の形を変えること）」などの動きが加速しており、企業の業績向上や自治体の行政改革にとっては追い風といえる。

平成27年度から始まった地方創生の動きのなかで、都心部から地方への移住・定住が推奨されたが、近年では経済合理性などから都心回帰の動きがみられ、東京都心からのアクセスが良いわりに地価が安い本市の移住・定住のポテンシャルが高まっている。一方、地域の持続的な発展を志向するなか、地域間の定住促進や企業誘致などの競争が激化しており、地域の魅力のタイムリーな発信などシティセールスの重要性が高まっている。

成田空港の第3滑走路の整備など機能強化が進むなか、北千葉道路など高速道路の整備進展も見据えると、本市への企業誘致や更なる移住・定住の促進のチャンスといえる。

2020年度以降のコロナ禍は、テレワークの急速な普及など人々の価値観やライフスタイルを大きく変えるインパクトがあった。また、激甚な被害をもたらす自然災害の増加や大規模災害（首都直下型地震等）の発生リスク、ウクライナ・ガザ地区の情勢といった地政学的リスクなど日本を取り巻く環境は不安定な要素を抱えている。このようにみると、現在は、大きな「変化の時代」を迎えており、今後の自治体によるまちづくりは、舵取りの難しさが強まっている。

図表 1 本市の内部環境・外部環境

強み (Strength)	弱み (Weakness)
子どもを産みやすい(若い世帯が多い)	保育所に入所しにくい
医療環境が充実している(市民の健康意識も高い)	小中学校のキャパシティが不足している
県内有数のコンパクトシティを形成している	高齢者向け福祉施設の需給がひっ迫している
社会インフラ(上下水道や市道など)が整備されている	スポーツ施設が少ない
火災が少ない(地域の火災への対応力も強い)	地域のコミュニティづくりの場が少ない
犯罪が減少傾向となっている	人口が増加している割に産業集積が乏しい
周辺地域のなかでは大規模農家が多い	周辺地域より商業売上の伸びが鈍い
温室効果ガス・都市ごみの排出量が少ない	農業が衰退傾向となっている
東京都心へのアクセス利便性が良い	女性及び高齢者の就業率が低い
住宅需要が多い(地価が割安である)	文化財が少ない
東京近郊地域からの移住が多い	観光面のポテンシャルが低い
行政運営のスリム化が図れている	慢性的な財政ひっ迫状況が続いている
機会 (Opportunity)	脅威 (Threat)
コロナ禍からの脱却に伴う経済成長	人口減少・高齢化の進行に伴う内需縮小リスク
近年の都市部への人口集中傾向の復活	インフレを映じた企業経営や市民生活への悪影響
SDGs(脱炭素)に関する意識の高まり	地域間競争の激化(定住促進・企業誘致等)
DX(デジタルトランスフォーメーション)の進展	激甚な被害をもたらす自然災害の増加
成田空港の機能強化や高速道路網の整備進展	大規模災害(首都直下型地震等)の発生リスク
ウイズコロナ時代における人々の価値観の変化	ウクライナ・ガザ地区の情勢など地政学的リスク

図表 2 本市の指標及び偏差値（赤い網掛け＝偏差値 50 以上，青い網掛け＝偏差値 50 未満，
周辺市＝習志野市，佐倉市，印西市）

分野	項目	本市の 指標	偏差値	順位	
				県内順位	周辺市 順位
子ども・子育て	合計特殊出生率	1.3	59.5	8位	2位
	15-49歳女性人口1千人あたり出生数(人)	32.6	57.5	12位	2位
	人口1千人あたり保育所定員(人)	14.3	47.1	30位	4位
地域福祉	高齢夫婦世帯数比率(%)	12.3	56.9	11位	2位
	高齢単身世帯数比率(%)	11.2	54.8	21位	3位
	老人クラブ加入率(%)	4.0	45.9	32位	3位
社会保険	要介護(要支援)認定比率(%)	17.6	45.1	36位	3位
	65歳以上人口1万人あたり介護老人福祉施設定員数(人)	108.1	40.6	49位	4位
健康	特定健康診査受診率(%)	33.9	50.3	41位	3位
	人口1万人あたり病院数(施設)	0.5	48.1	20位	1位
	人口1万人あたり病院病床数(床)	142.3	52.9	7位	1位
	人口1万人あたり医師数(人)	21.1	51.7	18位	3位
	人口1万人あたり小学校数(校)	0.9	38.8	47位	3位
	人口1万人あたり中学校数(校)	0.6	43.4	42位	3位
教育	小学生児童1百人あたり教員数(人)	5.6	39.2	47位	3位
	中学生生徒1百人あたり教員数(人)	6.0	38.9	53位	2位
	高等学校等進学率(%)	99.0	52.7	27位	4位
生涯学習	人口1万人あたり公民館数(館)	0.5	45.8	30位	2位
	人口1万人あたり図書館数(館)	0.3	50.4	21位	3位
文化	人口1万人あたり指定文化財数	0.0	40.4	54位	4位
スポーツ	人口1万人あたり社会体育施設数	1.2	41.3	50位	4位
暮らしの安心	人口1万人あたり火災発生件数(件)	2.1	57.4	14位	2位
	消防団員充足率(%)	90.3	54.9	22位	1位
暮らしの安全	人口1千人あたり犯罪発生件数(件)	4.9	48.7	27位	2位
上下水道	水道普及率(%)	99.7	55.8	6位	1位
	下水道普及率(%)	92.5	62.9	6位	3位
市街地・ 住環境の整備	可住地面積1km ² あたり人口密度(人/km ²)	4,365.4	59.5	9位	2位
	住宅地価格(千円/m ²)	112.3	60.8	7位	2位
	人口1千人あたり新設住宅の着工戸数(戸)	11.7	70.9	4位	2位
	人口1千人あたり小売店数(事業所)	4.9	41.0	41位	3位
	人口1千人あたり飲食店数(事業所)	3.3	45.6	30位	1位
	人口10万人あたり大型小売店数(事業所)	11.5	48.4	32位	3位
	医療施設徒歩圏(800m)人口カバー率(%)	97.9	64.1	6位	2位
	福祉施設徒歩圏(800m)人口カバー率(%)	98.1	65.3	2位	2位
	商業施設徒歩圏(800m)人口カバー率(%)	84.8	63.9	6位	1位

(注)各指標の出所及び年次は社会経済情勢の動向調査報告書を参照。

分野	項目	本市の指標	偏差値	順位	
				県内順位	周辺市順位
総合交通・道路環境の整備	人口1千人あたり交通事故発生件数(件)	2.2	49.6	30位	4位
	人口1千人あたり交通事故死傷者数(人)	2.5	52.7	25位	3位
	市町村道改良率(%)※	71.0	56.9	14位	1位
環境との共生・保全	1人あたり自動車CO2年間排出量(t-CO2/年)	0.3	62.4	5位	1位
循環型社会	1人・1日あたりごみ総排出量(g/人・日)	773.0	59.8	8位	1位
	ごみリサイクル率(%)	21.2	53.8	16位	1位
農業	販売農家数あたり農業産出額(百万円)	7.7	48.7	23位	1位
商工業	人口1千人あたり事業所数(事業所)	23.2	38.4	47位	2位
	人口1千人あたり従業者数(人)	288.1	44.8	41位	4位
	製造業事業所あたり製造品出荷額(百万円)	1,729.2	49.9	14位	3位
	1事業所あたり年間商品販売額(百万円)	258.9	54.0	16位	3位
	観光入込数(延べ人数)(人地点)	999,711	47.2	25位	3位
	宿泊客総数(人泊)	0	46.0	49位	3位
労働環境	就業率(%)	54.0	54.7	15位	3位
	第1次産業就業者比率(%)	1.1	39.8	47位	3位
	第2次産業就業者比率(%)	18.4	45.4	30位	1位
	第3次産業就業者比率(%)	76.8	58.9	17位	3位
	女性就業率(%)	44.8	46.8	35位	3位
	高齢者就業率(%)	21.3	38.8	49位	4位
行財政改革の推進	1人あたり人件費・物件費などの決算額(千円)	112.9	41.7	44位	3位
	財政力指数	0.9	58.2	12位	2位
	実質公債費比率(%)	5.9	49.5	28位	3位
	経常収支比率(%)	93.2	36.0	52位	4位
	実質収支比率	8.1	47.0	32位	4位
	人口1千人あたり職員数	5.9	60.9	5位	2位
市民の担税力	市民一人あたり所得割(千円)	63	58.4	9位	2位
	一事業所あたり法人税割(千円)	194	54.3	12位	3位
	市民一人あたり固定資産税(千円)	55	46.0	32位	3位
	一事業所あたり固定資産税(千円)	2,392	53.4	14位	3位
外国人の人口	外国人の人口	6,235	55.0	7位	1位
	総人口に占める外国人の構成比	3.1	57.2	10位	1位
	外国人増加率(2018年比)	36.6	46.6	38位	4位
	外国人増加数(2018年比)	1,672	52.5	9位	2位

(注)各指標の出所及び年次は社会経済情勢の動向調査報告書を参照。

II. 第12回八千代市市民意識調査【市内在住者・市外在住市内在勤者】

1. 調査目的

後期基本計画の策定にあたり、市民の市政やまちづくりに関する意識・意向を広く把握し、計画に反映させるとともに、今後の市政運営や政策立案の基礎資料とすることを目的として実施したものである。

2. 調査の概要

(1) 調査地域

八千代市内全域

(2) 調査対象

- ① 八千代市に在住する満18歳以上の男女（以下、市内在住者調査）
- ② 八千代市外から市内に在勤する満18歳以上の男女（以下、市外在住市内在勤者調査）

(3) 配布数と調査方法

① 市内在住者調査	配布数	3,500人を住民基本台帳から無作為 ^{※1} に抽出し、3,486人を調査対象とした。
	調査方法	郵送法（郵送配布－郵送回収）
② 市外在住市内在勤者調査	配布数	500人
	調査方法	郵送法（企業に持参－郵送回収）

※1：市内在住の18歳以上を対象に層化抽出法により抽出した。層化は性別、年齢別、7地域別で行い、市全体に対する割合に比例するように抽出した（14通が宛先不明のため、返還された。）。

(4) 調査期間

令和5年9月11日（月）～9月29日（金）

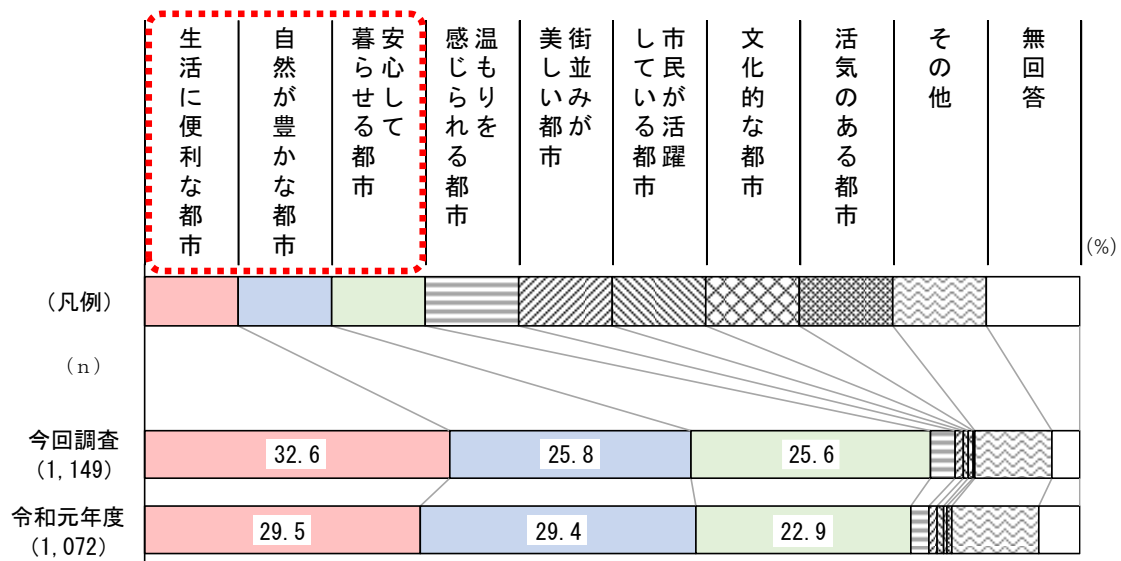
3. 市内在住者調査結果

(1) 八千代市のイメージ

八千代市のイメージは、「生活に便利な都市」が 32.6%で最も多く、「自然が豊かな都市 (25.8%)」、「安心して暮らせる都市 (25.6%)」が続いており、この3項目で84.0%を占めている (図表3)。

上位3項目を前回 (令和元年度) 調査と比較すると、「生活に便利な都市」(前回調査比+3.1ポイント)、「安心して暮らせる都市」(同+2.7ポイント)は増加したが、「自然が豊かな都市」(同▲3.6ポイント)は減少した。

図表 3 八千代市のイメージ

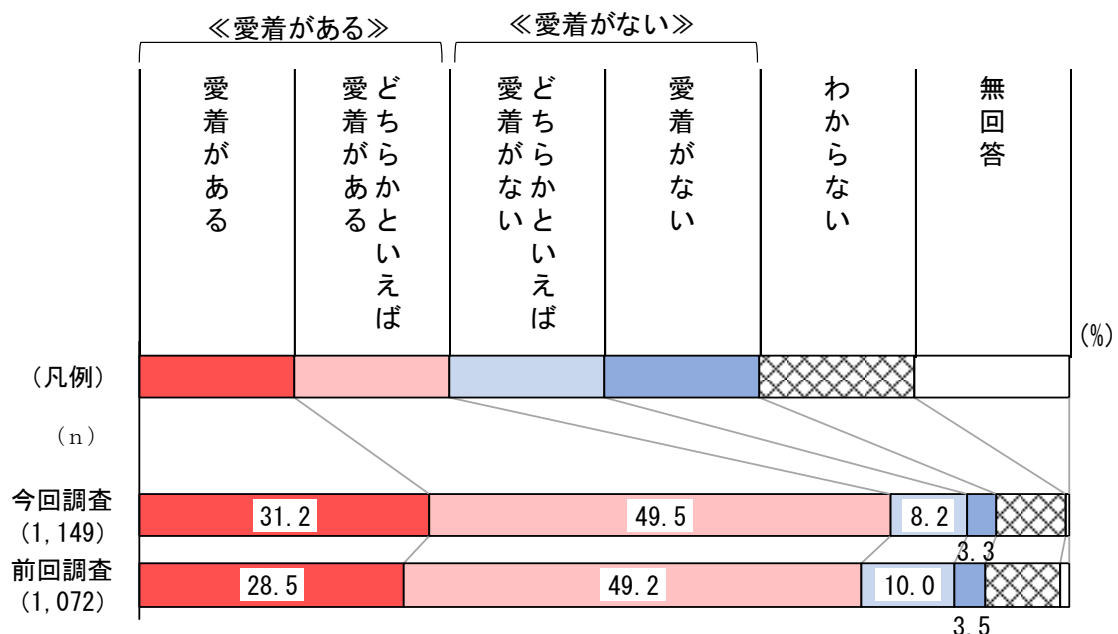


(2) 八千代市への愛着心

八千代市への愛着は、「どちらかといえば愛着がある」が 49.5%で最も多く、「愛着がある (31.2%)」をあわせた《愛着がある》は80.7%となっている (図表4)。

《愛着がある》の割合を前回調査と比較すると、3.0ポイント増加している。

図表 4 八千代市への愛着心



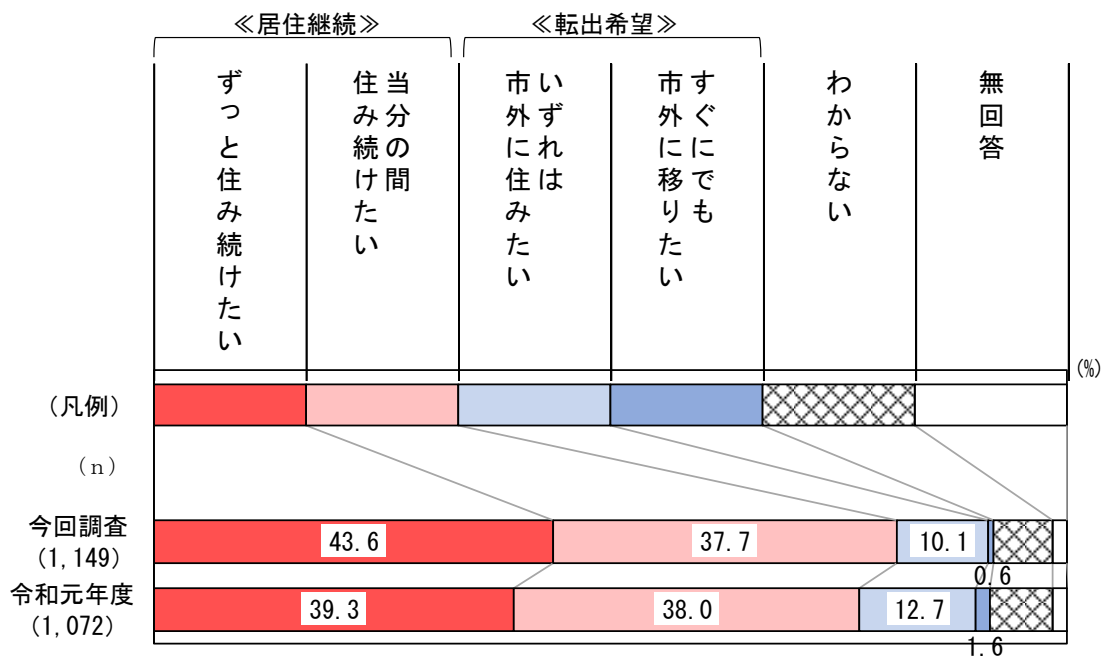
(3) 定住意向

① 定住意向

八千代市への定住意向は、「ずっと住み続けたい」が43.6%で最も多く、「当分の間住み続けたい(37.7%)」を合わせた《住み続けたい》は81.3%となっている(図表5)。

《住み続けたい》の割合を前回調査と比較すると、4.0ポイント増加している。

図表 5 定住意向

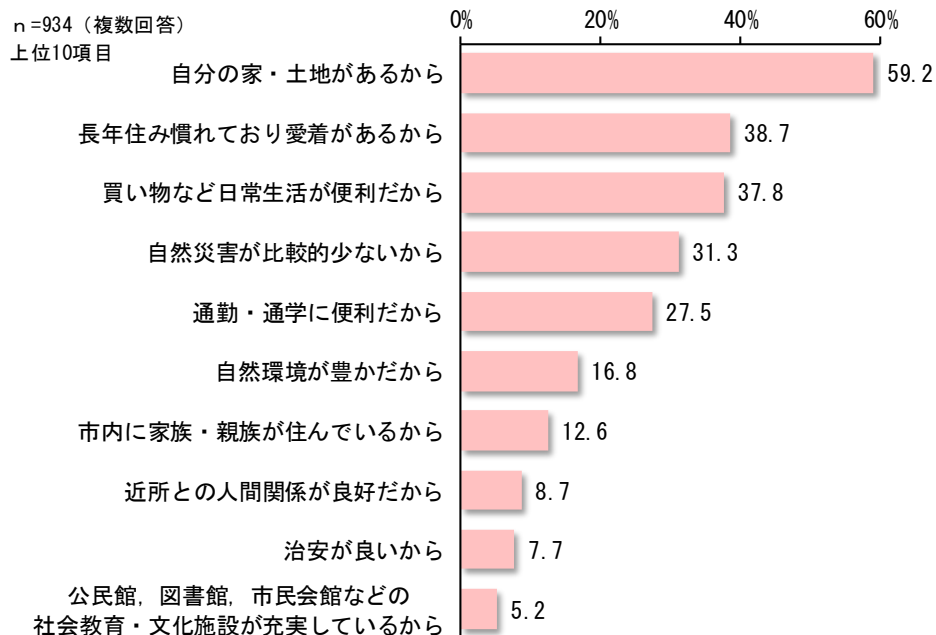


② 住み続けたい理由, 転出したい理由

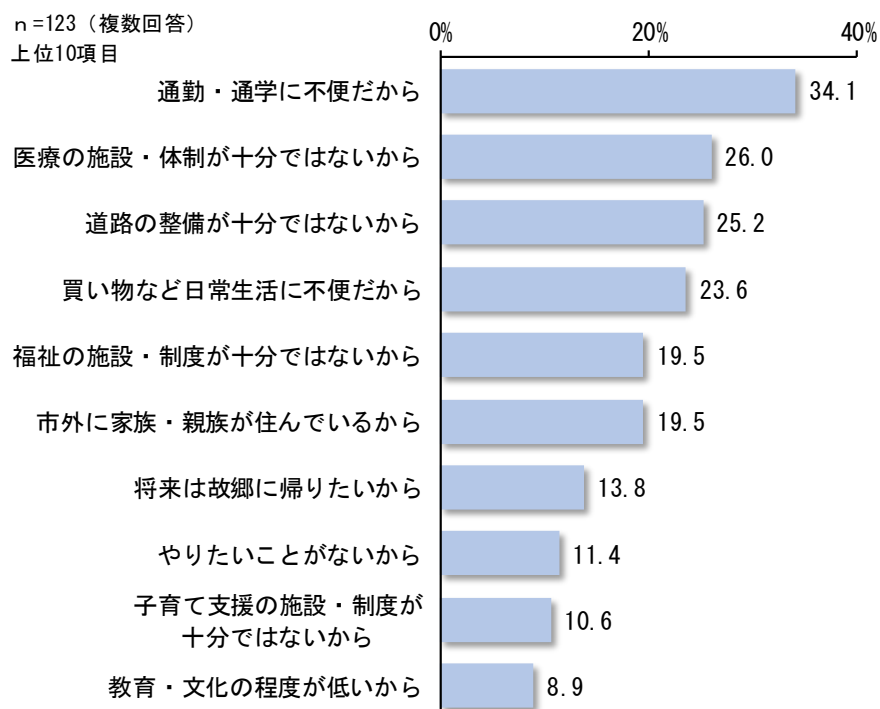
住み続けたい意向がある回答者に理由を尋ねたところ、「自分の家・土地があるから」が59.2%で最も多く、「長年住み慣れており愛着があるから (38.7%)」、「買い物など日常生活が便利だから (37.8%)」、「自然災害が比較的少ないから (31.3%)」が続いている (図表6)。

転出したい意向がある回答者に理由を尋ねたところ、「通勤・通学に不便だから」が34.1%で最も多く、次いで、「医療の施設・体制が十分ではないから (26.0%)」、「道路の整備が十分ではないから (25.2%)」、「買い物など日常生活に不便だから (23.6%)」の順となっている (図表7)。

図表 6 住み続けたい理由



図表 7 転出したい理由

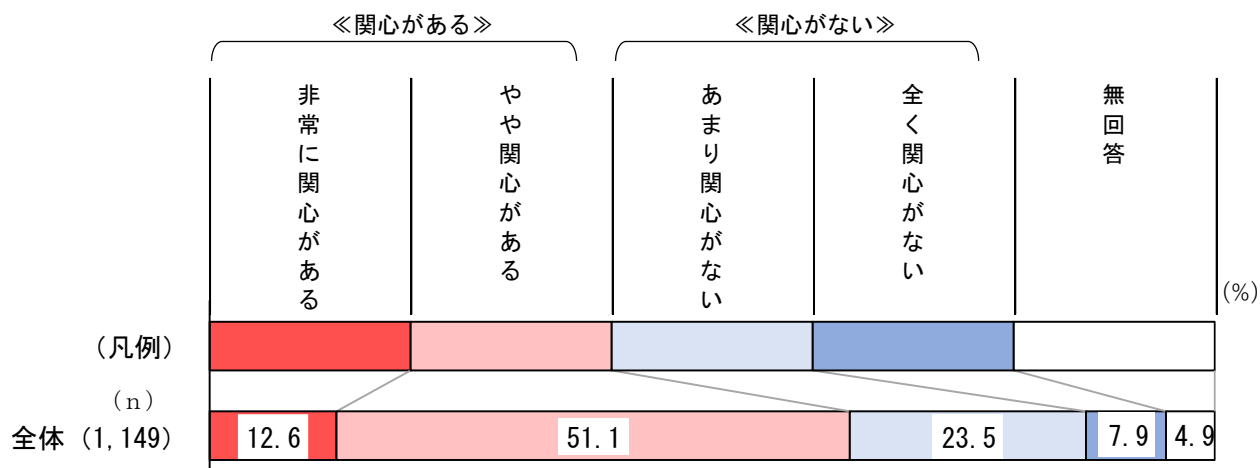


(4) SDGsに関する意向

① SDGsの関心度

SDGsの関心度は、「やや関心がある」が51.1%で最も多く、「非常に関心がある(12.6%)」を合わせた、「関心がある」の割合は63.7%となっている(図表8)。

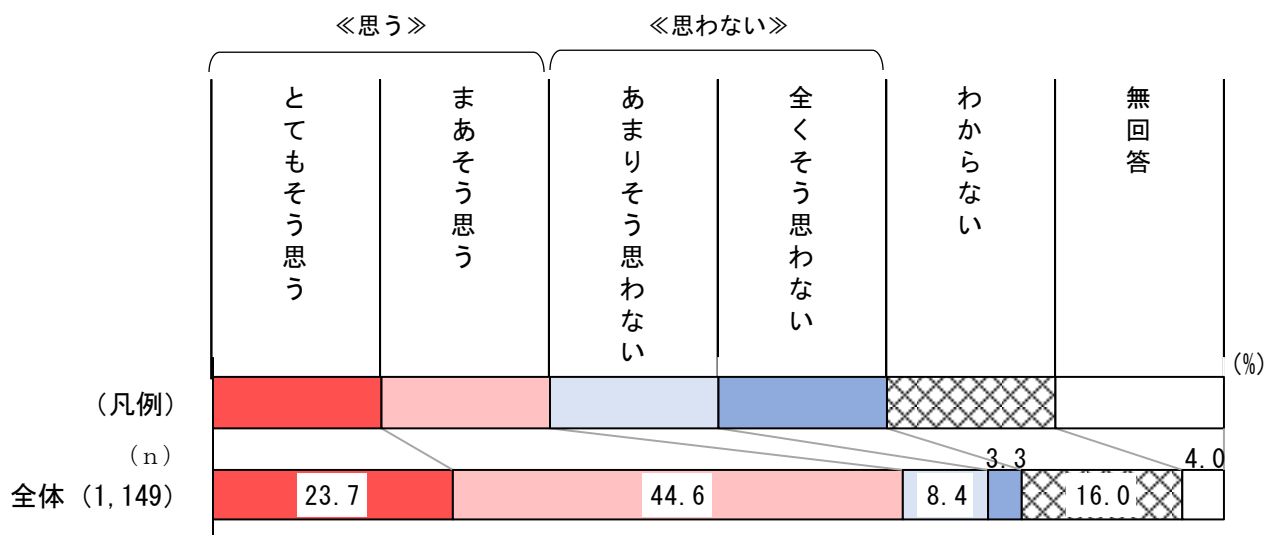
図表8 SDGsの関心度



② 市内(市役所, 市内企業等)でSDGsが推進されるべきだと思うか

市内でSDGsが推進されるべきだと思うかについて、「まあそう思う」が44.6%で最も多く、「とてもそう思う(23.7%)」を合わせた《そう思う》の割合は68.3%となっている(図表9)。

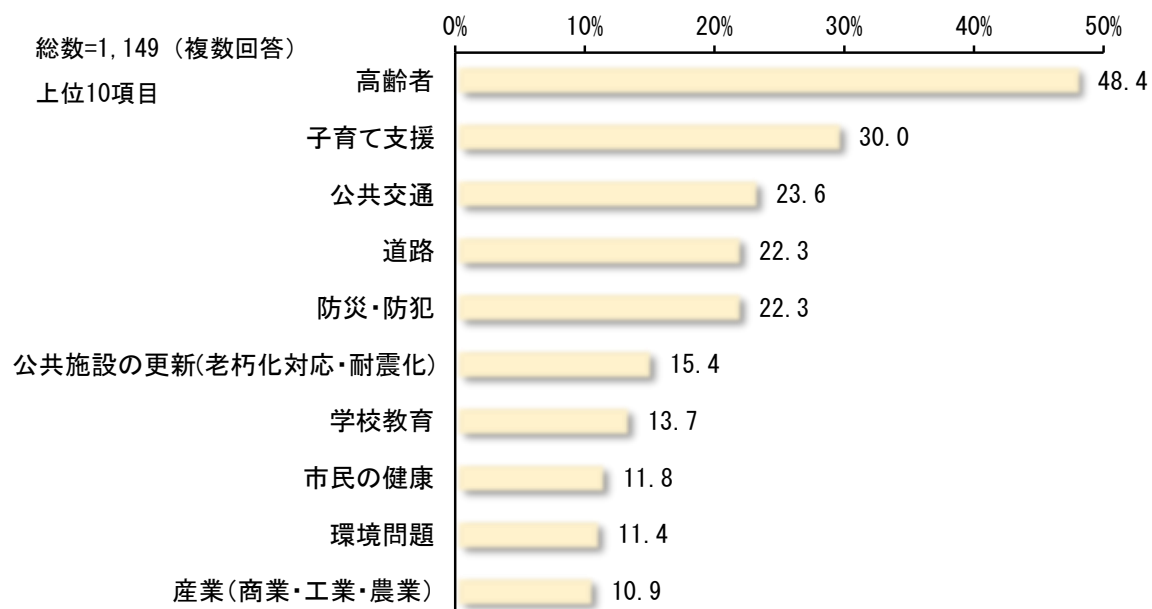
図表9 SDGsが推進されるべきだと思うか



(5) 市が力を入れて取り組むべき施策分野

八千代市が力を入れて取り組むべき施策分野は、「高齢者」が 48.4%で最も多く、「子育て支援(30.0%)」、「公共交通(23.6%)」が続いている(図表 10)。

図表 10 市が力を入れて取り組むべき施策分野

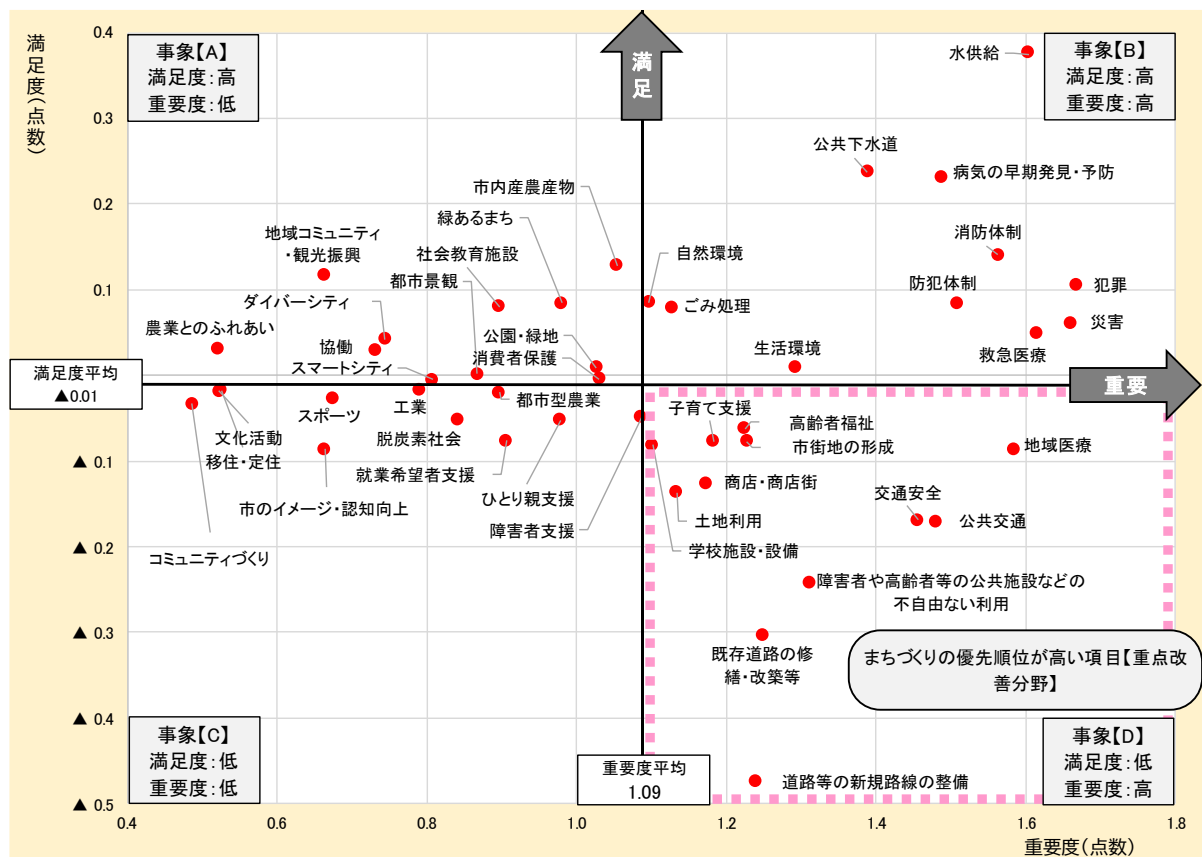


(6) 優先順位が高い今後のまちづくりの分野

優先順位が高い今後のまちづくりの分野（市民の満足度が低く、重要度が高い項目：ピンクの網掛け部分）をみると、「道路等の新規路線の整備」や「既存道路の修繕・改築等」など道路関連及び「公共交通」、「交通安全」など交通関連が多くなっている（図表 11, 12）。

また、「高齢者福祉」や「子育て支援」、「地域医療」、「学校施設・整備」などの市民ニーズも高い。

図表 11 優先順位が高い今後のまちづくりの分野



図表 12 優先順位が高い今後のまちづくりの分野（重要度の降順）

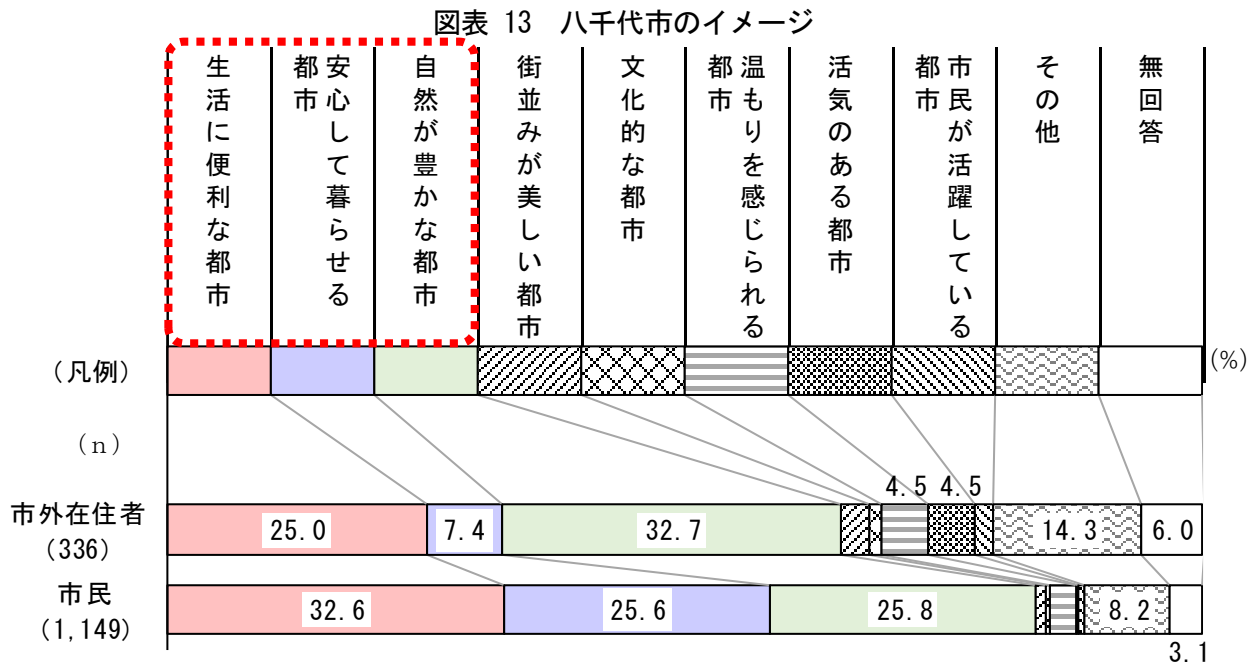
施策項目	重要度	満足度
地域の医療体制の充実	1.59	▲ 0.09
鉄道・バス路線などの公共交通網の整備	1.48	▲ 0.17
安全に通行するための交通安全施設の充実	1.46	▲ 0.17
障害者や高齢者などが公共施設、交通機関、歩行空間で不自由を感じないこと	1.31	▲ 0.24
既存道路の修繕・改築や段差の解消、点字ブロックの設置等の道路整備	1.25	▲ 0.30
渋滞解消等を担う都市計画道路等の新規路線の整備	1.24	▲ 0.47
利便性、安全性、快適性に富んだ良好な市街地の形成	1.23	▲ 0.08
高齢者福祉サービスの充実	1.22	▲ 0.06
子育てを支援するサービス体制の充実	1.18	▲ 0.08
地域に買い物に行きたいと思う商店・商店街の存続	1.17	▲ 0.13
市の計画的な土地利用の誘導による無秩序な開発の防止	1.13	▲ 0.14
小中学校の施設・設備の充実	1.10	▲ 0.08
障害者の自立を支援するサービス体制の充実	1.09	▲ 0.05

4. 市外在住市内在勤者調査結果

(1) 八千代市のイメージ

市外からの通勤者が八千代市に抱くイメージは、「自然が豊かな都市」が32.7%で最も多く、「生活に便利な都市」が25.0%、「安心して暮らせる都市」が7.4%となっており、この3項目で65.1%を占めている（図表13）。

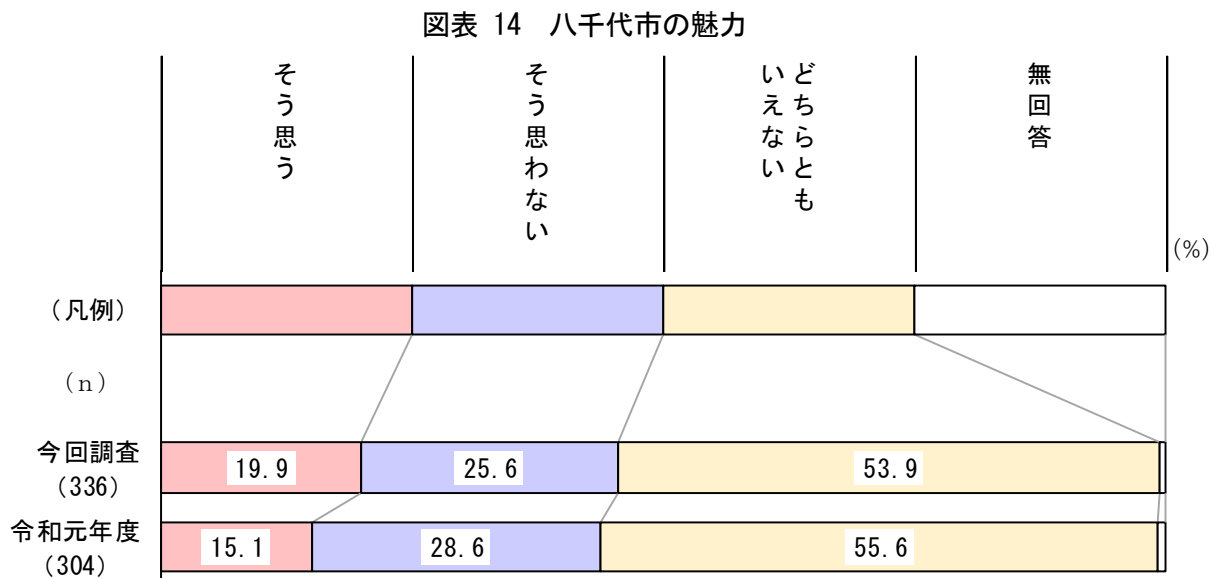
市民（市内在住者）の結果と比較すると、市外在住者では「自然豊かな都市」や「温もりを感じられる都市」などの割合が多くなっている。



(2) 八千代市の魅力

八千代市は住んでみたくなる魅力的なまちと思うかについて、「そう思わない(25.6%)」が「そう思う(19.9%)」を5.7ポイント上回っている。「どちらともいえない」は53.9%であった（図表14）。

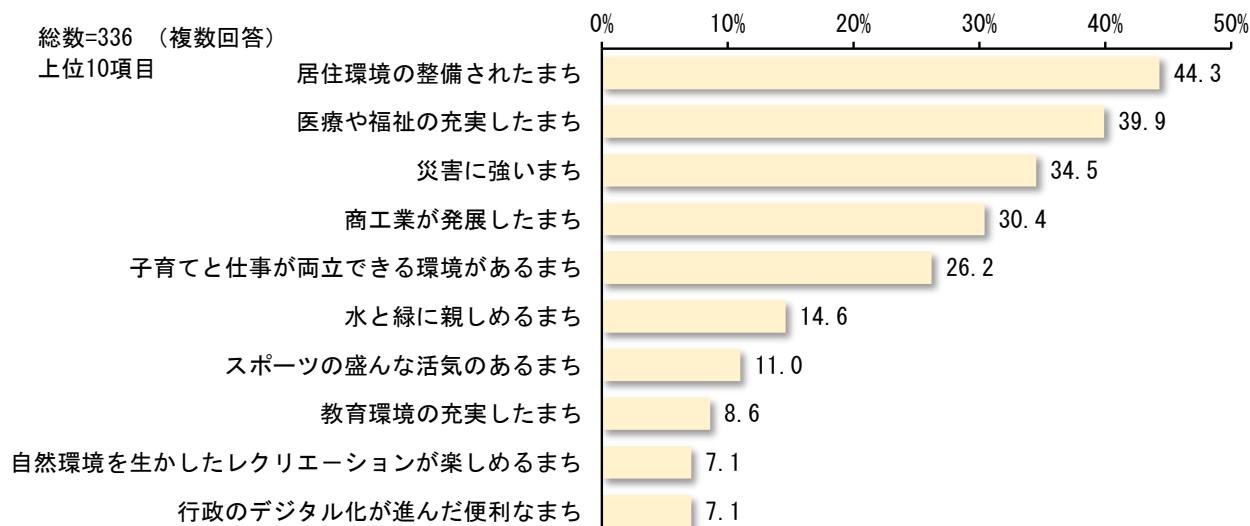
前回調査（令和2年3月）との比較では、「そう思う」が4.8ポイント増加した。



(3) 魅力的なまちになるための方向性

魅力的なまちになるための方向性は、「居住環境の整備されたまち」が44.3%で最も多く、「医療や福祉の充実したまち（39.9%）」、「災害に強いまち（34.5%）」が続いている（図表15）。

図表 15 魅力的なまちになるための方向性

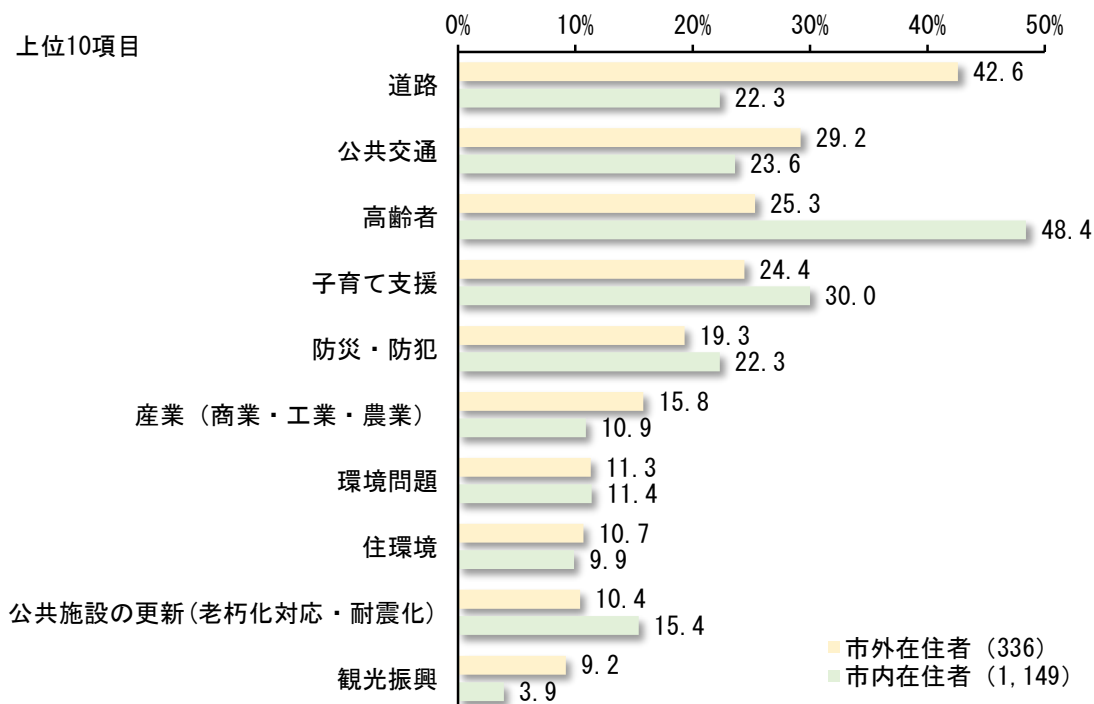


(4) 市が力をいれて取り組むべき施策分野

今後、市が力をいれて取り組むべき施策分野は、「道路」が42.6%で最も多く、次いで「公共交通（29.2%）」、「高齢者（25.3%）」の順となっている（図表16）。

市内在住者と比較すると、市外在住者は「道路」の割合が約2倍となっているほか、「公共交通」、「産業（商業・工業・農業）」、「住環境」、「観光振興」の割合が多い。

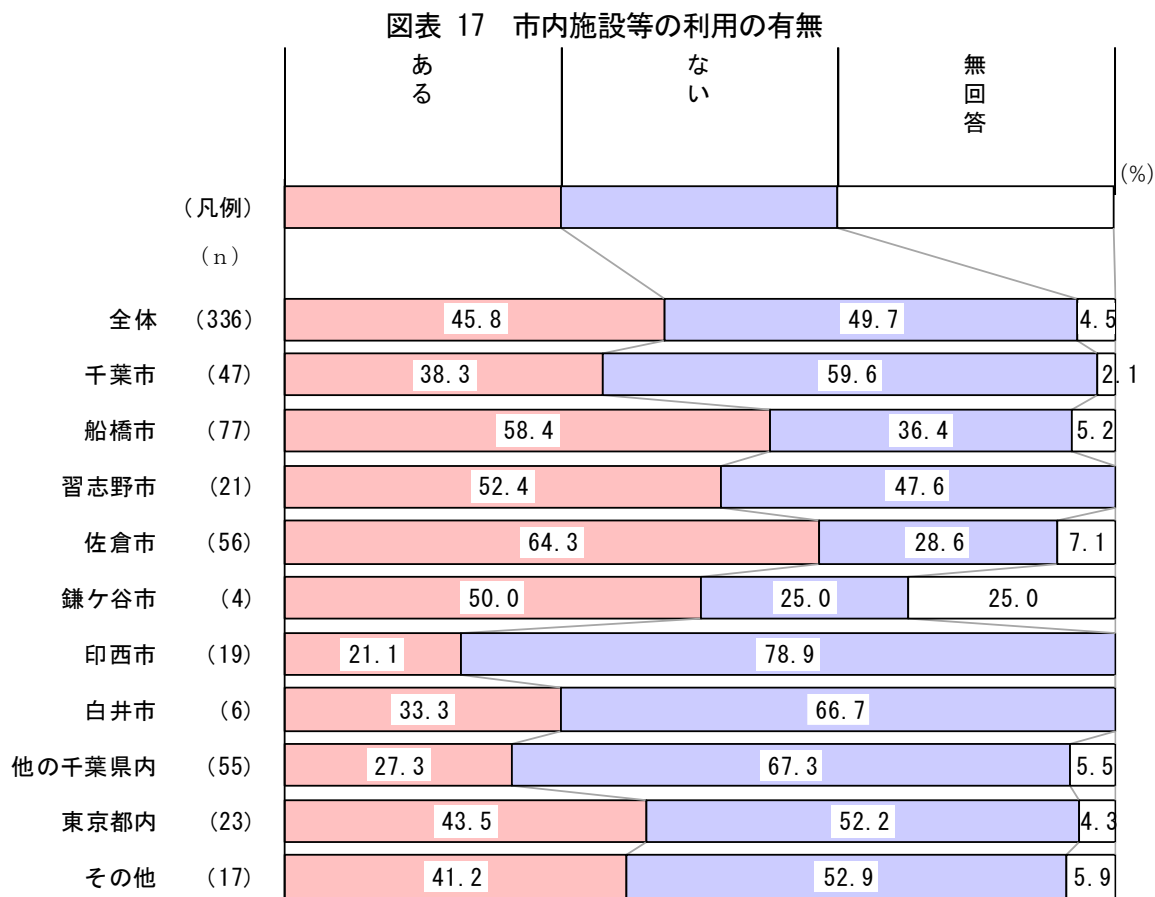
図表 16 市が力をいれて取り組むべき施策分野



(5) 商業施設

① 市内施設等の利用の有無

市外からの通勤者が、帰宅途中や休日に市内で立ち寄る施設が「ある」は 45.8%、「ない」は 49.7%で拮抗している（図表 17）。居住地別では、「ある」の割合は、「佐倉市」が 64.3%で最も多く、次いで「船橋市（58.4%）」、「習志野市（52.4%）」の順となっている。

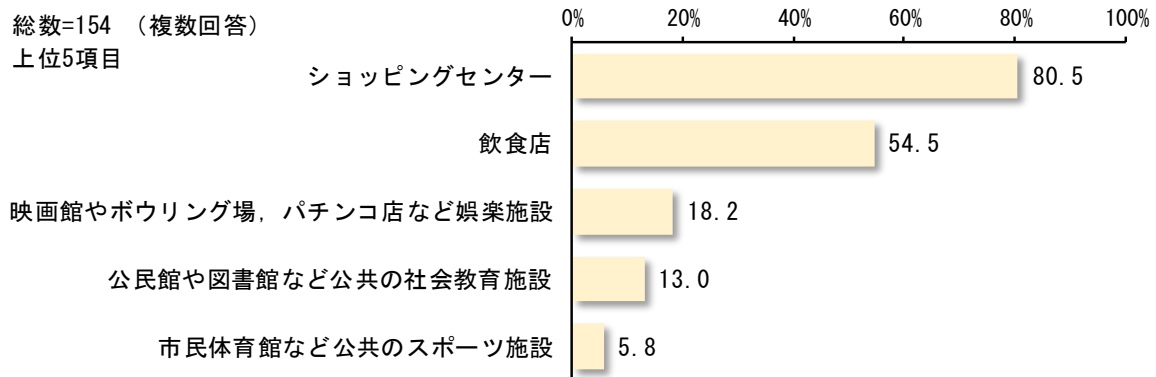


(注) 全体の回答者 (n) は、居住地の未回答者が含まれるため、居住地別の回答者の合計とは一致しない。

② 市内で立ち寄る場所

帰宅途中や休日に市内で立ち寄る施設が「ある」という回答者に、その立ち寄り先の施設を尋ねたところ、「ショッピングセンター」が80.5%で最も多く、「飲食店（54.5%）」が続いている（図表18）。

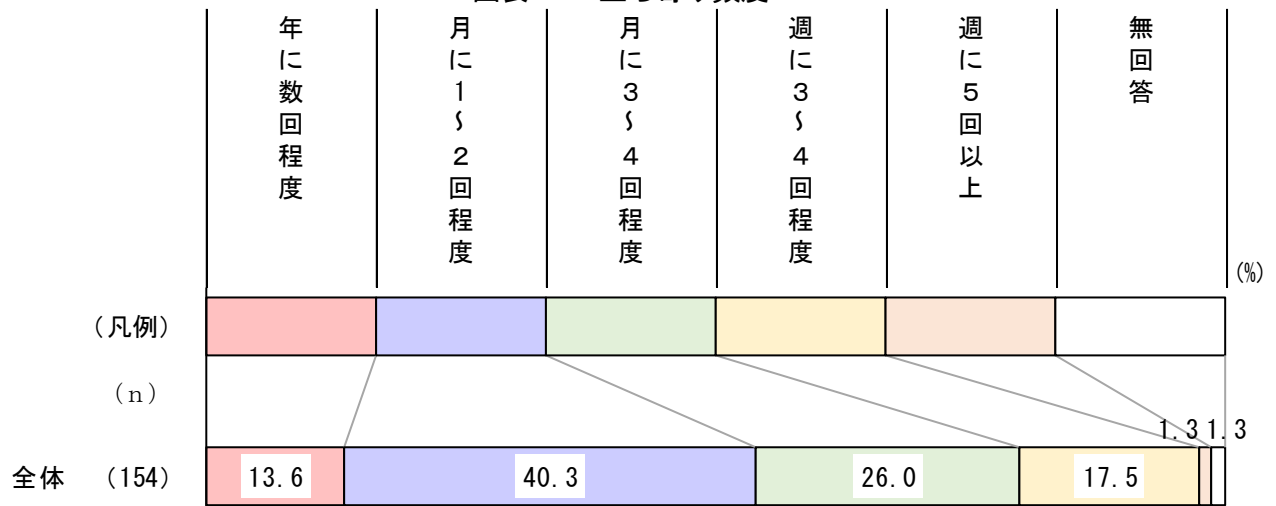
図表 18 市内で立ち寄る場所



③ 立ち寄り頻度

帰宅途中や休日に市内で立ち寄る施設が「ある」という回答者の立ち寄りの頻度は、「月に1～2回程度」が40.3%で最も多く、次いで「月に3～4回程度（26.0%）」、「週に3～4回程度（17.5%）」の順となっている（図表19）。

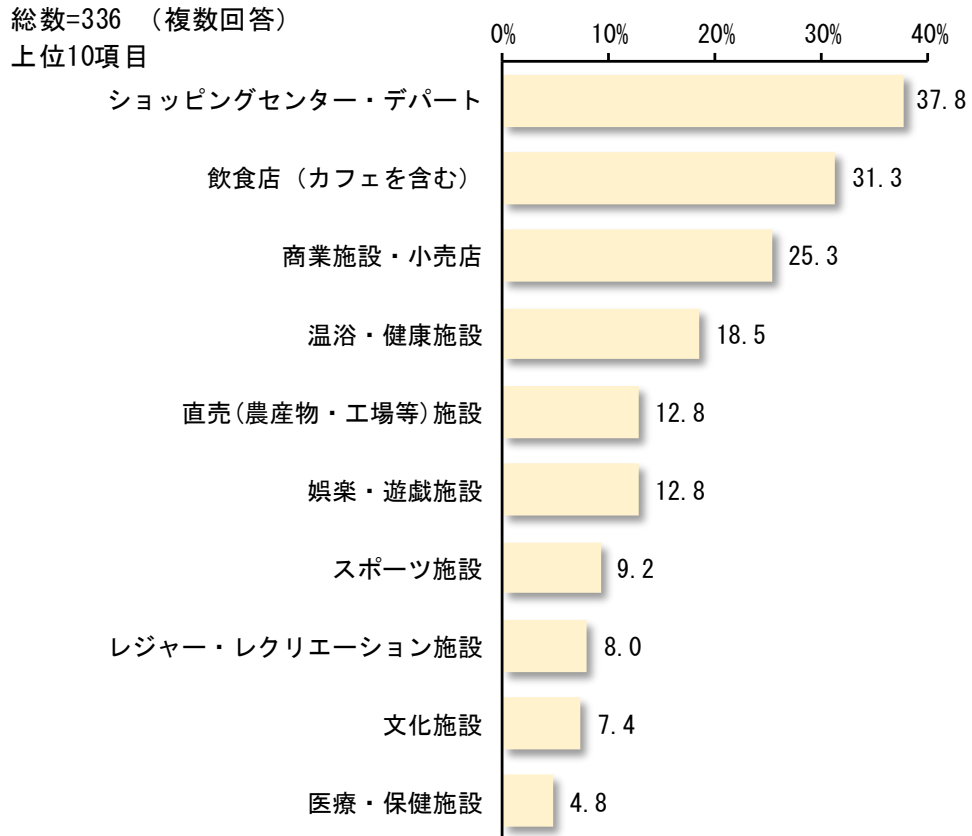
図表 19 立ち寄り頻度



④ 立ち寄りたい施設

立ち寄りたい施設は、「ショッピングセンター・デパート」が37.8%で最も多く、「飲食店（カフェを含む）（31.3%）」、「商業施設・小売店（25.3%）」が続いている（図表20）。

図表 20 立ち寄りたい施設



Ⅲ. 各種団体アンケート調査

1. 調査目的

後期基本計画の策定にあたり，市内の各分野で中心的な活動を行っている各種団体や事業者，市内各地域の代表者などを対象として，各分野・地域の現況と課題，解決策等に関する意見を求め，後期基本計画に反映させるとともに，今後の市政運営や政策立案の基礎資料とすることを目的として実施したものである。

2. 調査の概要

(1) 調査地域

八千代市内全域

(2) 調査対象

①市内の各分野で中心的な活動を行っている各種団体や事業者

②市内各地域の代表者

③配布数と回収結果

	各種団体	自治会	合計
配布数 (団体)	54	253	307
有効回答数 (団体)	31	123	154
有効回答率 (%)	57.4	48.6	50.2

(3) 調査方法

郵送・Web併用法 (郵送配布－郵送・Web回収)

(4) 調査期間

令和5年10月3日 (火) ～ 10月30日 (月)

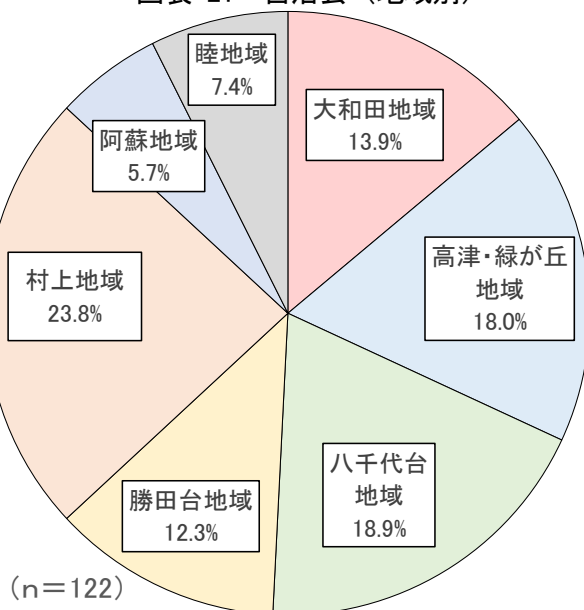
(5) 調査結果

① 回答団体の概要

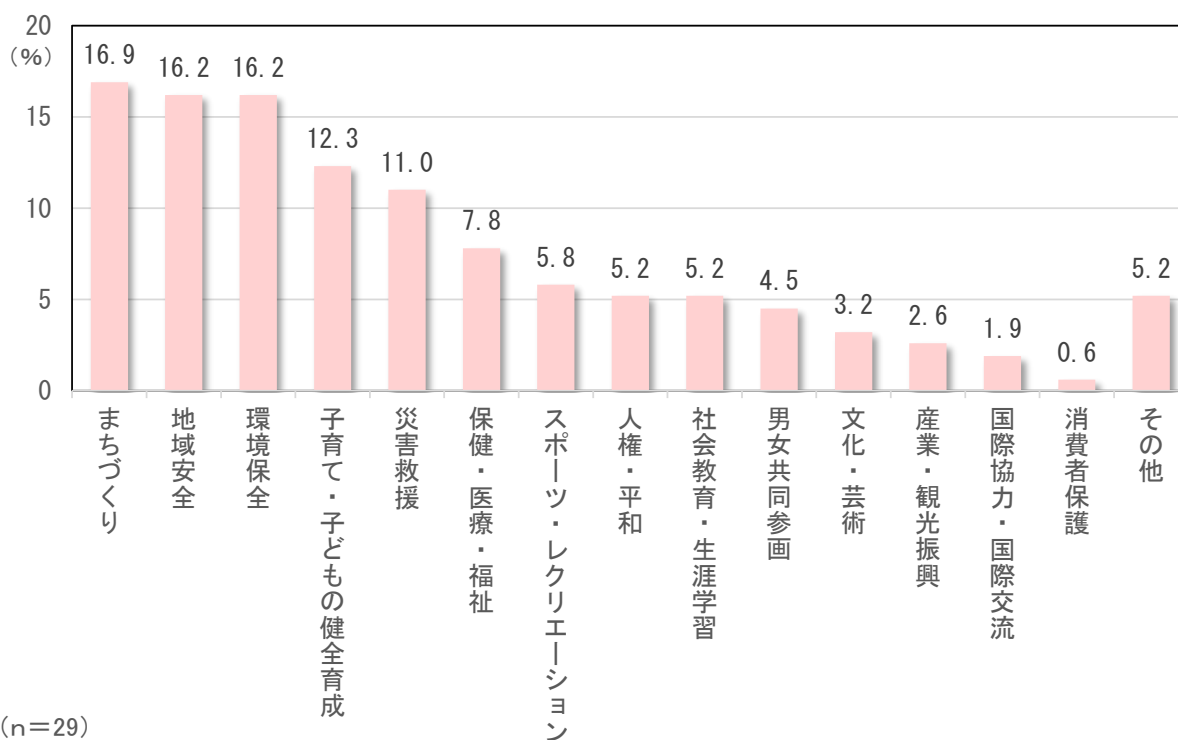
自治会を地域別にみると、「村上地域」が23.8%で最も多く、次いで「八千代台地域(18.9%)」、「高津・緑が丘地域(18.0%)」の順となっている(図表21)。

各種団体を主な活動分野別(複数回答)にみると、「まちづくり」が16.9%で最多となっており、「地域安全(16.2%)」と「環境保全(16.2%)」が同率で続いている(図表22)。

図表 21 自治会 (地域別)



図表 22 各種団体 (主な活動分野別)



② 活動にあたって困っていること

活動にあたって困っていることについて、各種団体は、「会員が減少・不足している」が71.9%で最も多く、次いで「リーダー・役員が不足している(53.1%)」、「活動資金が乏しい(50.0%)」の順となっている(図表23)。自治会は「リーダー・役員が不足している(52.1%)」が最多で、「活動をサポートする人員が不足している(40.2%)」、「会員が減少・不足している(29.9%)」が続いている。

図表 23 活動にあたって困っていること

(単位：%)

	(n)	リーダー・役員が不足している	活動をサポートする人員が不足している	会員が減少・不足している	活動が停滞・縮小している	専門的知識等が少ない	活動に当たって十分な活動が認められていない	市民等に十分活動が認められていない	活動拠点・施設が不足している	活動資金が乏しい	特についで困っていることはない	連携が乏しい	その他
全体	149	52.3	40.3	38.9	22.1	20.1	17.4	16.1	16.1	13.4	10.1	12.1	
各種団体	32	53.1	40.6	71.9	9.4	6.3	43.8	31.3	50.0	0.0	6.3	15.6	
自治会	117	52.1	40.2	29.9	25.6	23.9	10.3	12.0	6.8	17.1	11.1	11.1	

(注) 網掛けは上位3位。

③ 行政に望む支援

行政に望む支援について、各種団体は、「活動内容の広報やPRに関する支援」が61.3%で最も多く、次いで「活動資金の支援(48.4%)」、「活動や会議などに利用できる場の提供(32.3%)」の順となっている(図表24)。自治会は「活動をサポートする人員に対する支援(26.8%)」及び「活動に役立つ情報提供(26.8%)」が同率で最多となっており、「特に支援の必要はない(25.9%)」が続いている。

図表 24 行政に望む支援

(単位：%)

	(n)	活動をサポートする人員に対する支援	活動に役立つ情報提供	活動資金の支援	PRに関する広報や支援	活動内容の広報や支援	利用できる場の提供	活動や会議などに利用できる場の提供	リーダーの人材育成	相談体制の充実	運営等に関する支援	地域内や他団体との連携サポート	仕組みの成果が活かされる	特に支援の必要はない	その他
全体	143	27.3	27.3	26.6	21.7	20.3	20.3	18.9	18.2	11.2	20.3	9.1			
各種団体	31	29.0	29.0	48.4	61.3	32.3	16.1	3.2	16.1	29.0	0.0	12.9			
自治会	112	26.8	26.8	20.5	10.7	17.0	21.4	23.2	18.8	6.3	25.9	8.0			

(注) 網掛けは上位3位。

④ 解決に向けて取り組んでいる地域課題

解決に向けて取り組んでいる地域課題は、「安心・安全」が75.2%で最も多く、次いで「まちづくり(46.0%)」、「福祉(30.1%)」の順となっている(図表25)。

団体種別に見ると、各種団体は、「まちづくり(66.7%)」、自治会は「安心・安全(88.8%)」がそれぞれ最多となっている。

図表 25 解決に向けて取り組んでいる地域課題

(単位：%)

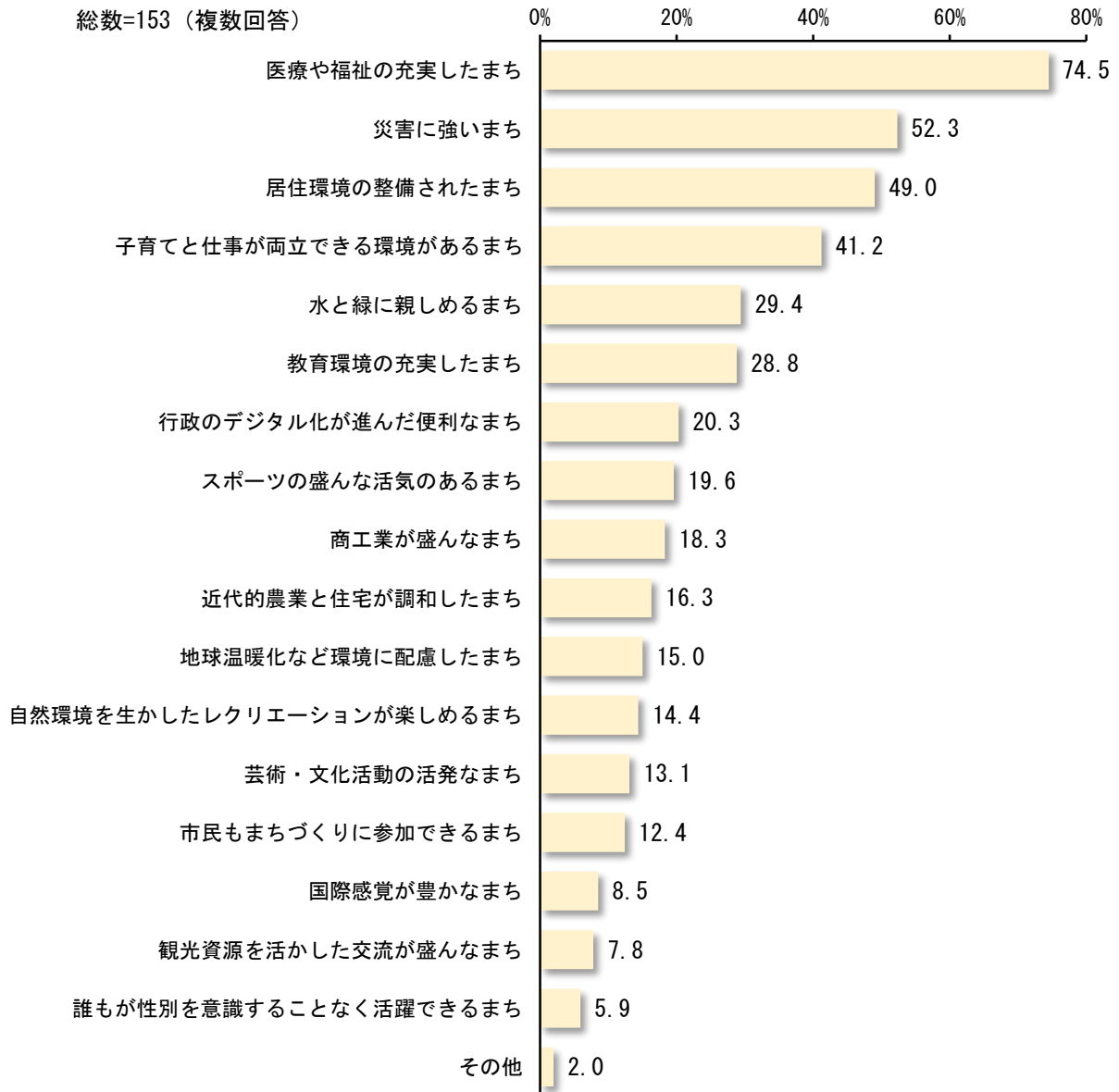
	(n)	安心・安全 交通安全など (防災対策、 防犯対策)	地域課題 活性化、交流・ 支え合い促進、 まちづくり (コミュニティ)	福祉 (高齢者・障 がい者支援、 医療・介護支 援、健康づく りなど)	SDGsの推 進など	環境(自然環 境保全、ま ちの景観、 廃棄物処理 、CO2の削 減)	歴史・文化 (地域の祭 事や伝統 行事、イベ ントの開催 など)	教育(学校教 育支援、学 び直し・能 力向上支援 、生涯学習 支援など)	雇用創出、 人材育成な ど)	産業振興(農 水産業など 地場産業の 振興、工商 業振興、観 光振興)	醸成や情報 提供など)	少子化対策 (出会いの 場・マッチ ング会場の 創出、結婚 に向けた機 運の)	その他
全 体	113	75.2	46.0	30.1	29.2	15.0	12.4	4.4	2.7	6.2			
各 種 団 体	30	40.0	66.7	43.3	40.0	20.0	43.3	16.7	10.0	3.3			
自 治 会	83	88.0	38.6	25.3	25.3	13.3	1.2	0.0	0.0	7.2			

(注) 網掛けは上位3位。

⑤ 八千代市の発展の方向性

八千代市の発展の方向性は、「医療や福祉の充実したまち」が74.5%で最も多く、「災害に強いまち（52.3%）」、「居住環境の整備されたまち（49.0%）」が続いている（図表26）。

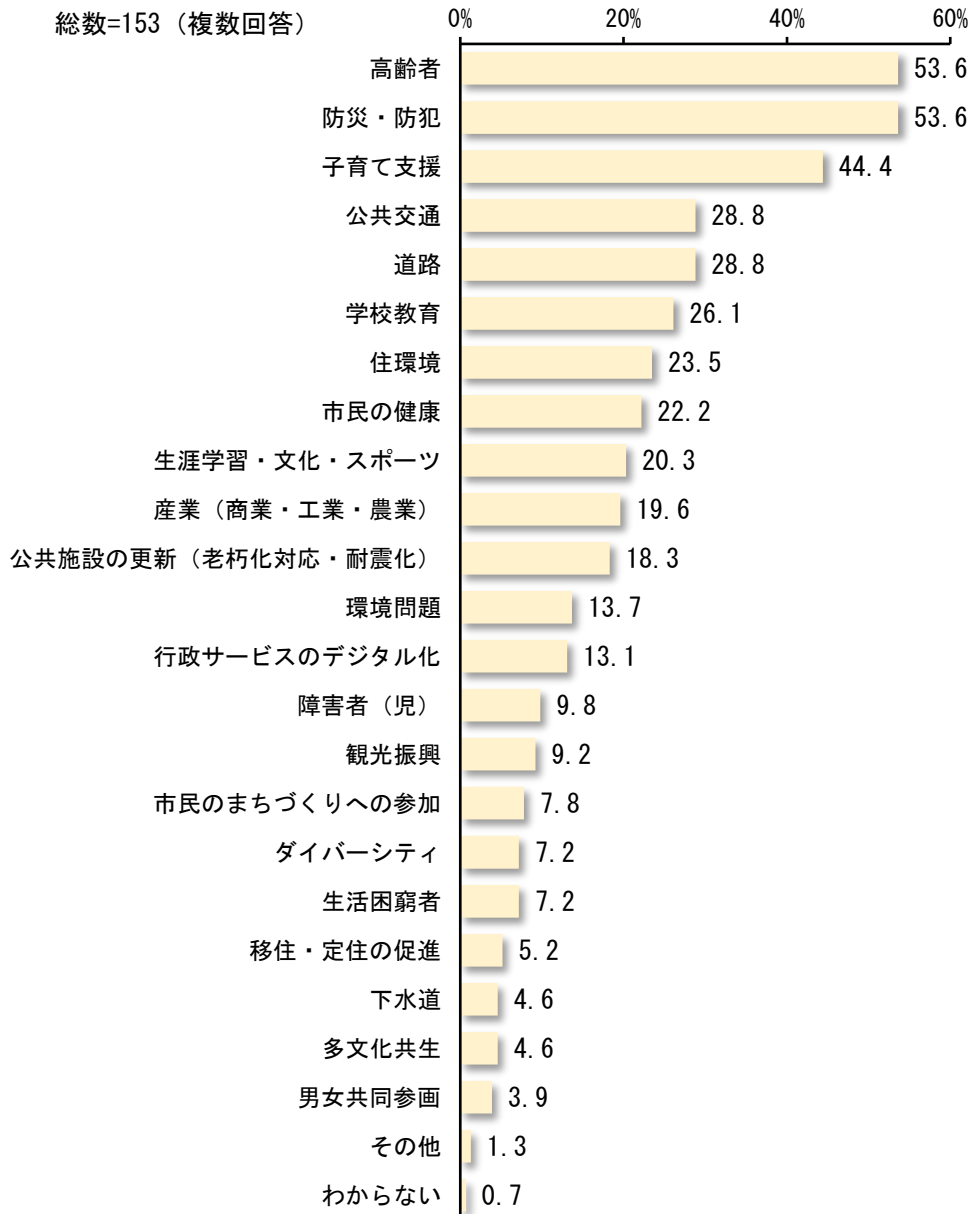
図表 26 八千代市の発展の方向性



⑥ 八千代市が注力すべき施策分野

八千代市が注力すべき施策分野は、「高齢者」と「防災・防犯」がいずれも 53.6%で最多となっており、「子育て支援（44.4%）」が続いている（図表 27）。

図表 27 八千代市が注力すべき施策分野



⑦ 自治会からみた主な地域の魅力

	地域	地域の魅力
1	大和田地域	<ul style="list-style-type: none"> ・新住民と古くから住んでいる住民との垣根がない。 ・静かで清潔な住環境を協力して維持できている。
2	高津・緑が丘地域	<ul style="list-style-type: none"> ・居住者の年齢層がある程度分散されている。 ・道路幅が広く，交通事故が発生しにくい。
3	八千代台地域	<ul style="list-style-type: none"> ・会員がお互いに顔を知っており，コミュニケーションがある。 ・町がどんどん便利になり，駅前では食品や衣類などが買い物できる。 ・近くに森や畑があり，身近に自然を感じられる。
4	勝田台地域	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の便が良く近くにはスーパーが二つあって買い物も便利である。 ・伝統行事（勝田獅子舞）等の文化継承が行われている。
5	村上地域	<ul style="list-style-type: none"> ・戸建てが多く，街並みが整った静かで落ち着いたまち。 ・緑が多く，交通量も少ないため，子育てに適している。 ・体育館や図書館が近くにあり，商業施設（フルルガーデン）へのアクセスも良い。
6	阿蘇地域	<ul style="list-style-type: none"> ・新川が近くにあり，自然が豊かである。
7	睦地域	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地より離れているため，空気おいしい。 ・各家庭が庭の手入れをしており，住宅と緑のコントラストが美しい。

⑧ 自治会からみた主な地域の課題

	地域	地域の課題
1	大和田地域	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の高齢化に伴い，日常的なサポートの必要性が高まっている。 ・空き家が多く，防犯上の問題がある。
2	高津・緑が丘地域	<ul style="list-style-type: none"> ・親睦会の規模が年々小さくなり，隣近所の「顔」が見えにくくなっている。 ・バラ園までの遊歩道の整備や害虫の駆除（桜）が課題となっている。
3	八千代台地域	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の道路が車の抜け道となっており，地域の安全性を損なっている。 ・公園の樹木の管理頻度が少なく，鬱蒼としたり，落ち葉が道路に広がっている。 ・地域とのつながりが学校関係以外では乏しい。
4	勝田台地域	<ul style="list-style-type: none"> ・住民と外国人が共存できるような活動が必要である。 ・若い人材が少ないため，商店街も活気がない。
5	村上地域	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の一人暮らしが多く，防犯・防災には周りの人が気を配る必要がある。 ・会員の高齢化に伴い，防災スピーカーが聞こえづらいとの声が聞かれる。 ・自衛隊の夜間訓練（飛行機騒音）の時間を短縮してほしい。
6	阿蘇地域	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化に伴い，自治会の役員を引き受けてくれる人がいない。 ・ゴミがすごい。新川の水が汚い。
7	睦地域	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校が過密化している。 ・高齢者の買い物支援が必要になってきている。

IV. 市民ワークショップ

1. 市民ワークショップの概要

(1) 開催目的

後期基本計画（令和7～10年度）の策定に際し、市民の市政への関心・興味を高めるとともに、市民から市政に対する意見・要望やまちづくりに対する課題・提案を幅広くいただき、計画策定の参考とするために実施する。

(2) 開催概要

① 対象

八千代市の市政やまちづくりに関心があり、まちづくりに関する課題・問題点や今後の方向性、施策・事業などの提案をしていただける市民。

② 人数・班分け

	班名	申込人数	第一回 参加者数	第二回 参加者数
1	若者世代チーム	6名	5名	6名
2	子育て世代チーム	8名	5名	5名
3	転入者チーム	7名	4名	4名
4	現役世代チーム	9名	5名	3名
5	高齢者チーム	10名	9名	7名
	合計	40名	28名	25名

③ 開催日

第1回：令和5年11月12日（日）10：00～12：00

第2回：令和5年11月26日（日）10：00～12：10

④ 会場

八千代市役所別館2階第1・第2会議室

⑤ 市民ワークショップのテーマ

八千代市のよいところ・魅力及び課題・問題点を踏まえたうえで、八千代市の今後のまちづくりで取り組むべきことなどについて、参加者から意見や提案をいただく。

各回の検討テーマは下表のとおり。

第1回	<ul style="list-style-type: none">● 八千代市のまちづくりの現状（各種調査結果）に関する情報提供● 八千代市のよいところ・魅力と課題・問題点の洗い出し・整理— 好きな点・良い点・自慢したい点、嫌いな点・改善した方がよい点など
第2回	<ul style="list-style-type: none">● 第1回ワークショップの振り返り— 第1回ワークショップの検討結果に関する情報提供● 今後のまちづくりで優先的に取り組むべきことの洗い出し・整理— 八千代市の新しいまちづくりの方向性、今後のまちづくりの施策・事業、市民参加のあり方（自分たちができること）など

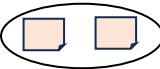
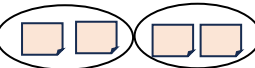
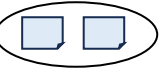
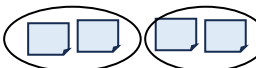
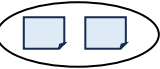
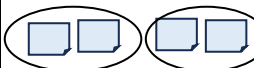
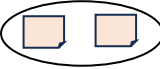
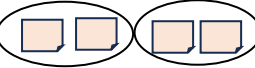
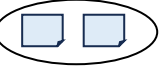
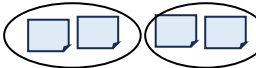
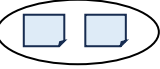
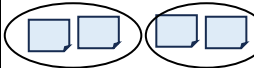
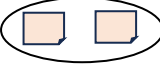
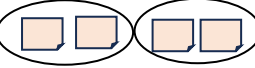
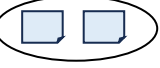
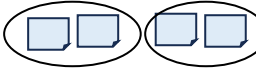
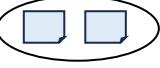
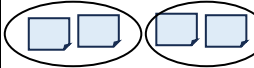
⑥ 市民ワークショップのプログラム

ワーキング【★】に重点を置いて進め、最後に各グループの意見を全体で共有する。
各回のプログラム・タイムスケジュールは下表のとおり。

(注) 時間配分はおおよその目安

	プログラム (★ : ワーキング)	時間
第1回	① 挨拶及び今回のワークショップの趣旨説明	10分
	② 八千代市のまちづくりの現状(各種調査結果)の情報提供	10分
	③ 第1回ワークショップの進め方・作業方法の説明	5分
	④ 自己紹介(名前, 居住地区, ワークショップ参加の目的・抱負など)	10分
	⑤ 八千代市のよいところ・魅力と課題・問題点の洗い出し・整理【★】 ー好きな点・良い点・自慢したい点, 嫌いな点・改善した方がよい点を洗い出し, 整理	60分
	⑥ 主な意見・論点等の発表	15分
	⑦ 次回の予定・今後の進め方のご案内	5分
第2回	① 市長挨拶	5分
	② 第2回ワークショップの進め方・作業方法の説明	5分
	③ 八千代市の施策・事業の情報提供	10分
	④ 八千代市の今後のまちづくりの方向性及び優先的に取り組むべきことの洗い出し・整理【★】	75分
	⑤ 主な意見・論点等の発表	20分
	⑥ 総合計画策定の今後の流れの説明等	5分

◆模造紙(ホワイトボード)のイメージ

まちづくりの課題 (第1回の結果を記載)	まちづくりの方向性	優先的に取り組むべきこと	
		自治体によって 欲しいこと	私たち(市民)が できること
課題A	 	 	 
課題B	 	 	 
課題C	 	 	 

(3) 市民ワークショップの成果 (抜粋)

① まちづくりの方向性

【若者世代チーム】

まちづくりの課題	まちづくりの方向性(テーマ)
課題① インフラ(施設)の充実	子育て支援
	施設改修と施設の魅力の向上
	市の特性の活用
課題② 生活環境の維持・向上 (脱炭素への対応を含む)	きれいで住みやすいまちづくり
	空き家対策の強化
	エコなまちづくり
課題③ 市の政策の活性化	子ども(学生)ファーストの施策実施
	交流促進
	集客促進

【子育て世代チーム】

まちづくりの課題	まちづくりの方向性(テーマ)
課題① 子育てしやすいまちづくり	地域資源の活用
	安心につながる情報発信
	スポーツ促進
課題② 交通アクセスの改善	アクセス利便性の向上
	安心できる歩行空間の整備
課題③ 観光振興	新川の活用
	情報発信力の強化
	外国人との共生

【転入者チーム】

まちづくりの課題	まちづくりの方向性(テーマ)
課題① 安心・安全な移動手段の確保	公共交通網の維持・確保
	歩道橋エレベーターの設置
	渋滞対策の強化
課題② 安心・安全なまちづくり (医療・介護・防犯)	夜間救急医療体制の充実
	防犯灯の拡充
	防犯カメラの増設
課題③ 観光振興	観光情報発信力の強化
	ふるさと納税返礼品の拡充
	廃校の活用

【現役世代チーム】

まちづくりの課題	まちづくりの方向性(テーマ)
課題① 地域のつながりや個性、 コミュニティのさらなる強化	交流の推進
	施設の整備
	景観まちづくりの推進
課題② 市の印象(都市アイデン ティティ)やPR力の強化	イベントの増加
	PRの強化・多様化
課題③ 産業の活性化	産業の育成

【高齢者チーム】

まちづくりの課題	まちづくりの方向性(テーマ)
課題① 高齢者福祉の充実	ボランティアの活用
	一人暮らしの高齢者への支援
	市役所の相談窓口の充実
課題② 地域コミュニティの構築 (高齢者の生きがいづくり)	施設の充実
	各種プログラムの充実
	サークル活動の活発化
課題③ 多様な交通手段の確保 (交通弱者への対応強化)	交通弱者への支援
	鉄道運賃の引き下げ
	交通手段の多様化

② 自治体にやって欲しいこと

【若者世代チーム】

まちづくりの課題	自治体にやってほしいこと
課題① インフラ(施設)の充実	学校校舎の改修・認可保育園設立の促進 リノベーションのための予算組・方向性の検討 市営運営体育館の増設
課題② 生活環境の維持・向上 (脱炭素への対応を含む)	レンタサイクル・ポートを増やす 空き家のリノベーションに対する補助金 車が通れないように歩行者天国の実施
課題③ 市の政策の活性化	給食・子どもの医療費の完全無料化 ワークショップ等の機会・場所の提供 歩行者が歩ける空間をつくり回遊性を向上

【子育て世代チーム】

まちづくりの課題	自治体にやってほしいこと
課題① 子育てしやすいまちづくり	高齢者リソースの把握と子育て需要のマッチング 八千代市コンシェルジュの設置 スポーツ特待生・奨学金・スクールの仕組みづくり
課題② 交通アクセスの改善	自動運転バス運行による大幅増便 交通量が多い歩道の整備(ベビーカー・車いすも通りやすく)
課題③ 観光振興	広報担当部署の設置 農産物マップなどで直売所をアピール 外国人と共生するまちづくり(アジアシティ)

【転入者チーム】

まちづくりの課題	自治体にやってほしいこと
課題① 安心・安全な移動手段の確保	オンデマンドバス・タクシーの導入 歩道橋エレベーターの設置 右折車線の整備
課題② 安心・安全なまちづくり (医療・介護・防犯)	市内完結の2次救急医療体制の確保 駅からやや離れた真っ暗な箇所への防犯灯の優先設置 防犯カメラの増設
課題③ 観光振興	市民リポーター制度(高校生以外)創設 「モノ」返礼品に「サービス」分野を追加 お化け屋敷イベント(松戸市で実施)やコスプレ大会など

【現役世代チーム】

まちづくりの課題	自治体にやってほしいこと
課題① 地域のつながりや個性、 コミュニティのさらなる強化	外国人との交流の場を作る(イベント等) 跡地(旧学校、その他)の整備をする 景観行政団体への移行
課題② 市の印象(都市アイデン ティティ)やPR力の強化	ガキ大将の森や道の駅のバーベキューなどを利用する 積極的な情報発信 地域資源の掘り起こし(見直し)
課題③ 産業の活性化	企業、進出企業に対し税を優遇する 国の補助金、助成金を利用して産業を育成

【高齢者チーム】

まちづくりの課題	自治体にやってほしいこと
課題① 高齢者福祉の充実	ボランティアを一元管理し、活動実績のPRを大々的に行う 自治体による一人暮らし家庭のサポート充実 出かけられない高齢者のための出張サービス
課題② 地域コミュニティの構築 (高齢者の生きがいづくり)	世代を問わず触れ合える施設・機会を作してほしい ヨガ・ピラティスなど魅力的なイベントをやしてほしい ゴミゼロ運動(スポGOMIなど)を定期開催する
課題③ 多様な交通手段の確保 (交通弱者への対応強化)	街灯を増やしてほしい 東葉高速鉄道の運賃引き下げ ふれあい無料バスの拡大を図る

③ 私たち（市民）ができること

【若者世代チーム】

まちづくりの課題	私たち(市民)ができること
課題① インフラ(施設)の充実	SNS発信 地産のものが食べられる店を集める
課題② 生活環境の維持・向上 (脱炭素への対応を含む)	災害時のハザードマップの確認 ご近所コミュニティをつくる 省エネ意識の向上・電気の見える化
課題③ 市の政策の活性化	SDGsに対する意識を高める 市の情報をチェックする(市民だより、アプリ、SNS等) 自治会スケールで議論する

【子育て世代チーム】

まちづくりの課題	私たち(市民)ができること
課題① 子育てしやすいまちづくり	市民ボランティアへの特典(税金免除・食券等) 口コミで周知
課題② 交通アクセスの改善	できるだけ徒歩・自転車で移動する 右折車を先に行かせる
課題③ 観光振興	イベントに参加する(参加者数を増やす) SNS・口コミ発信

【転入者チーム】

まちづくりの課題	私たち(市民)ができること
課題① 安心・安全な移動手段の確保	交通ルールの順守
課題② 安心・安全なまちづくり (医療・介護・防犯)	
課題③ 観光振興	市発信情報に対する「いいね！」運動

【現役世代チーム】

まちづくりの課題	私たち(市民)ができること
課題① 地域のつながりや個性、 コミュニティのさらなる強化	交流の場への参加まち歩き等への参加 旧施設跡地を活用し、地域学習等の機会を作る
課題② 市の印象(都市アイデン ティティ)やPR力の強化	イベントの企画 リツイート対応／ワークショップ等への参加
課題③ 産業の活性化	八千代市の梨を使った料理をPRする

【高齢者チーム】

まちづくりの課題	私たち(市民)ができること
課題① 高齢者福祉の充実	ボランティアに参加してよりよい街にしていきたい 一人暮らし世帯へのサポート
課題② 地域コミュニティの構築 (高齢者の生きがいづくり)	自分の経験を通じた特技などを登録制にする 隣近所の高齢者と話す機会を増やす
課題③ 多様な交通手段の確保 (交通弱者への対応強化)	運転に気をつけたいと思う

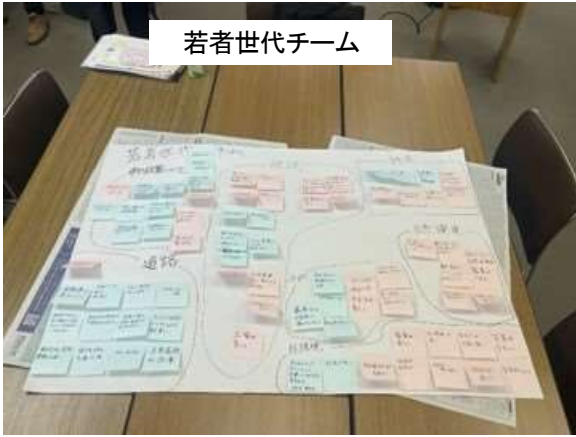
2. グループワークの様子

(1) グループワーク中



(2) 第1回グループワークの成果物

若者世代チーム



子育て世代チーム



転入者チーム



現役世代チーム



高齢者チーム



(3) 第2回グループワークの成果物及び発表風景



若者世代チーム



子育て世代チーム



転入者チーム



現役世代チーム



高齢者チーム



V. 八千代市のまちづくりの課題

令和5年度に実施した4つの調査結果を踏まえて、八千代市のまちづくりの課題を整理した(図表28, 29)。

市民意識調査(市内在住者)によると、八千代市が力を入れて取り組むべき施策分野(上位5位)として、①高齢者(回答割合48.4%)、②子育て支援(同30.0%)、③公共交通(同23.6%)、④道路(同22.3%)、⑤防災・防犯(同22.3%)、が挙げられており、これらは、今後の中核的なまちづくりのテーマといえる。

八千代市には、主に東京近郊からの人口流入が続いているが、2029年には人口がピークを迎えるとの推計もあり、移住・定住の促進は、持続的なまちづくりにとって不可欠といえる。また、人口増加を背景に、人口当たりの小中学校や保育所、福祉施設、スポーツ施設などの生活インフラがやや低水準となっており、更なる充実が求められている。

産業面をみると、人口が増加している割に産業集積が乏しいことや、観光面のポテンシャルが低いことから、産業振興による雇用の場の創出ならびに観光振興による賑わいの創出が必要である。

八千代市は、新旧住民が入り混じった人口構成となっているほか、外国人の移住も県内トップクラスとなっている。また、各地域の自治会からは、高齢化により地域のリーダーが不足しているとの声も聞かれるなど、市民自治の担い手の確保も含めて、地域コミュニティをいかに活性化していくかという視点も欠かせない。

SDGs(脱炭素)は、「市内でSDGsが推進されるべき」と考える市民が約7割にのぼるなど市民の関心が高まっている。あわせて、DX(デジタルトランスフォーメーション)を活用したまちづくりも中長期的な視点で進めるべきテーマといえる。

図表 28 八千代市のまちづくりの課題

- (1) 高齢者福祉の推進
- (2) 子育てしやすいまちづくりの推進
- (3) 公共交通の充実(移動手段の多様化)
- (4) 防災・防犯の対応力強化
- (5) 移住・定住の促進
- (6) 生活インフラの更なる充実
- (7) 産業振興による雇用の場の創出
- (8) 本市固有の文化・観光資源を活用した賑わいづくり
- (9) 地域コミュニティの活性化
- (10) SDGs(脱炭素)の推進
- (11) DXを活用したまちづくりの推進

図表 29 八千代市のまちづくりの課題（各種調査との対応表）

	まちづくりの課題	社会経済情勢の動向調査	市民意識調査① (市内在住者)	市民意識調査② (市内在勤市外在住者)	各種団体アンケート調査	市民ワークショップ (まちづくりの課題)
1	高齢者福祉の推進	医療環境が充実している	重点施策分野「高齢者」(48.4%:1位) 優先順位が高い分野 「高齢者福祉サービスの充実」 「地域の医療体制の充実」	重点施策分野「高齢者」 (25.3%:3位) 今後の方向性「医療・福祉の 充実したまち」(39.9%:2位)	注力すべき施策分野「高齢者」 (53.6%:1位)	高齢者福祉の充実(高齢者)
2	子育てしやすいまちづくりの推進	子どもを産みやすい(若い世帯が多い)	重点施策分野「子育て支援」 (30.0%:2位) 優先順位が高い分野「子育てを支援する サービス体制の充実」	重点施策分野「子育て支援」 (24.4%:4位) 今後の方向性「子育てと仕事が両立 できる環境があるまち」(26.2%:5位)	注力すべき施策分野「子育て支援」 (44.4%:3位) 各種団体の活動分野「子育て・子供の 健全育成」(12.3%:4位)	子育てしやすいまちづくり (子育て世代)
3	公共交通の充実 (移動手段の多様化)	東京都心へのアクセス利便性が良い 市道が整備されている	重点施策分野「公共交通」(23.6%:3位) 重点施策分野「道路」(22.3%:4位) 優先順位が高い分野「安全に通行するため の交通安全施設の充実」	重点施策分野「道路/公共交通」 (42.6%:1位/29.2%:2位)		交通アクセスの改善(子育て世代) 安心・安全な移動手段の確保 (転入者) 多様な交通手段の確保(高齢者)
4	防災・防犯の対応力強化	激甚な災害をもたらす自然災害の増加 大規模災害(首都直下型地震等) の発生リスク	本市のイメージ「安心して暮らせる都市」 (25.6%:3位) 重点施策分野「防災・防犯」 (22.3%:4位)	重点施策分野「防災・防犯」 (19.3%:5位) 今後の方向性「災害に強いまち」 (34.5%:3位)	各種団体の活動分野「地域安全」 (16.2%:2位) 発展の方向性「災害に強いまち」 (52.3%:2位)	安心・安全なまちづくり (医療・介護・防犯)(転入者)
5	移住・定住の促進	東京近郊地域からの移住が多い 住宅需要が多い(地価が割安である) 近年の都市部への人口集中傾向の復活	住みたい(回答割合:81.3%) 本市のイメージ「生活に便利な都市」 (32.6%:1位)	本市のイメージ「生活に便利な都市」 (25.0%:2位) 今後の方向性「居住環境の 整備されたまち」(44.3%:1位)	各種団体の活動分野「まちづくり」 (16.9%:1位)	市の印象(都市アイデンティティ) やPR力の強化(現役世代)
6	生活インフラ(※)の更なる充実 ※小中学校・保育所や福祉施設、 スポーツ施設など	小中学校のキャパシティ不足 保育所に入所しにくい 高齢者向け福祉施設の需給ひっ迫 スポーツ施設が少ない	優先順位が高い分野「利便性・安全性・ 快適性に富んだ市街地の形成」 優先順位が高い分野 「小中学校の施設・設備の充実」		発展の方向性「医療や福祉の充実 したまち」(74.5%:1位) 発展の方向性「居住環境の整備された まち」(52.3%:2位)	インフラ(施設)の充実(若者世代) 生活環境の維持・向上(若者世代)
7	産業振興による雇用の場の創出	人口が増加している割に 産業集積が乏しい 周辺地域より商業売上の伸びが鈍い 女性・高齢者の就業率が低い コロナ禍からの脱却に伴う経済成長	優先順位が高い分野「地域に買い物に 行きたいと思う商店・商店街の存続」	今後の方向性「商工業が発展したまち」 (30.4%:4位) 市内立寄場所「ショッピングセンター」 (80.5%:1位)		産業の活性化(現役世代)
8	本市固有の文化・観光資源を 活用した賑わいづくり	文化財が少ない 観光面のポテンシャルが低い 周辺地域のなかでは大規模農家が多い 農業が衰退傾向となっている	本市のイメージ「自然が豊かな都市」 (25.8%:2位)	本市のイメージ「自然が豊かな都市」 (32.7%:1位)	発展の方向性「水と緑に親しめるまち」 (29.4%:5位)	観光振興(子育て世代・転入者)
9	地域コミュニティの活性化	地域のコミュニティづくりの場が少ない 外国人の人口(県内7位)		本市のイメージ「安心して暮らせる都市」 (7.4%:3位)	活動にあたって困っていること 「リーダー・役員が不足している」 (52.3%:1位)	地域のつながりや個性、コミュニティ の更なる強化(現役世代) 地域コミュニティの構築(高齢者)
10	SDGs(脱炭素)の推進	SDGs(脱炭素)に関する意識の高まり 温室効果ガス・都市ごみ の排出量が少ない	SDGsに関心がある(回答割合:63.7%) 市内でSDGsが推進されるべき (回答割合:68.3%)		各種団体の活動分野「環境保全」 (16.2%:2位)	生活環境の維持・向上(若者世代)
11	DXを活用したまちづくりの推進	DX(デジタルトランスフォーメーション)の進展 行政運営のスリム化が図れている 慢性的な財政ひっ迫状況が続いている			発展の方向性「行政のデジタル化が進んだ 便利なまち」(20.3%:7位)	市の政策の活性化(若者世代)

八千代市第5次総合計画後期基本計画

策定に係る基礎調査報告書

令和6年3月

発行 八千代市企画部企画経営課
〒276-8501 八千代市大和田新田 312-5
電話 047(483)1151(代表)